無一文「人力」世界一周の旅（岩崎圭一箸）

著者は 1972 年生まれ。2002 年３月に下関から出国して釜山へ行く。以来、路上芸人としてマジックを披露しながらママチャリの「人力」のみで世界一周をめざし、21 年間無帰国で旅を続けている。

あとがきが良い。「インドを目ざして旅を始め、３年くらいしたら日本に戻るつもりだった。だが、世界に足を踏み出してみると、とても３年では足りなかった。（中略）そして 35 歳に日本に戻ればまあいいかと旅を続け、そのうち 40 歳前なら何とかなるかと思うようになり、40 歳を過ぎた頃は行けるところまで行くかという心境になっていた。」「高山や砂漠など厳しい自然環境で暮らす人達に親切にしてもらった時のことだ。無人の荒野で水が尽き、一人では何もできない状況に追い込まれた。そんな時、生活に余裕が無いだろう彼らが、言葉が通じない、見ず知らずの一介の旅行者の私に、貴重な水や食糧を分けてくれたのだ。」と世界の人々が助けてくれたことに感謝する。

「深夜特急」の沢木耕太郎でさえ 30 万円の現金を持って旅を始めた。殆ど金の無い著者は路上芸人でしのぎ、投げ銭で助けてもらい旅を続けている。

目次を見ると１，アジア疾走編　２，チベット潜入編　３，インド周遊編　４，エベレスト登頂編　５，ガンジス河下り編　６，砂漠＆カスピ海横断編　７，ヨーロッパ＆ゴット・タレント編 と興味深い旅の記録が続いている。

この本のハイライトは何と言っても 2005 年５月、海抜０mから人力のみでエベレスト登頂を達成したところだ。インドの最南端カニャクマリ（コモリン岬）海抜０mから世界最高峰海抜 8848m のエベレスト山頂をめざした。できるだけ人力で登る所が凄い。完全に０円で出発する。道中で芸をしてコインを得て旅を続ける。チャリで出発して２ヶ月でネパール到着。カトマンズでエベレスト登頂の情報をかき集める。全く登山経験のない著者がどうやってエベレスト登頂をするのかワクワクものである。エベレストに登頂したシェルパと知り合い「6000mの山を登れたら可能性がある」と言われる。エベレストの高さに耐えられるか調べるのだそうだ。更に登山費用の見積もりを見せてもらうと約 600 万円。登頂費用を確保するため地元の新聞社に「海抜０mからのエベレスト」という記事を書いてもらい、スポンサーを募るも失敗する。日本の友人に頼み、クラウドファンディングを立ち上げ 300 万円を集める。300 万で登頂を請け負うという登山会社を見つけ、そこのガイドとトレーニングを始める。約１ヶ月カトマンズの近くの 30mほどロープを張った岩場でザイルでの登攀、登高器での登攀、エイト環の使い方などを習う。カトマンズの中古登山店で全ての登攀装備を揃える。

2005 年２月にアイランドピークに行き 5800m まで登る。この登攀が認められ 2005 年の春の登山隊に入れてもらう。普通はルクラまで飛行機で入るのだが、人力で登るので３日をかけてママチャリでジリという村に行く。チャリはジリに置いて行く。ジリから歩き始め５日かけてルクラまで行く。そこから約 10 日かけてエベレスト BC 着。

登山会社が組織したメンバーは 17 名。ここから登頂までの約２ヶ月間一緒の生活が始まる。天気が安定せず体調を崩し 17 人のメンバーがどんどん減っていく。最後にサウスコルのキャンプ４に残ったのは３名のみ。酸素ボンベの酸素が切れる寸前。キャンプ４から最後のアタックを試みる。約 15 時間かけて 8848mに登頂し戻ってくる。強風の中、遭難もせず良く帰還できたものだと感心した。知識も経験もない素人が、僅かのトレーニングでエベレスト登頂が果たせるとは驚きだ。自転車で鍛えた体力と気力と多くの仲間の支えと少しばかりの運が効いたのだろうか。ルクラからジリまで歩き、チャリで８日かけてカトマンズに戻る。

著者はここからガンジス河を下り、インド大陸を西に進みイラン、トルコ、イスタンブールを越えヨーロッパに向かう。途中で強盗に遭う、警官に殴られるなど苦難を経てイギリスに渡る。ロンドンでゴッド・タレントという TV 番組に出演する。手品を披露し優勝した。

貰った賞金で大西洋横断の手こぎボートを手に入れた。幾つかの企業から食糧援助をしてもらい、この手こぎボートでポルトガルの港からこぎ出し、大西洋横断の旅に出るそうだ。23 年目のなんとも夢の広がる旅が良い。

今はユーチューバーとしても活躍しているそうで再生回数は 350 万回。FB の動画は一日で 1000 万回。今や有名人なのだそうだ。人生を駆けた旅人だ。

グッドラック！無事の帰還を願っています。

2023 年６月 20 日　　無一文「人力」世界一周の旅　岩崎圭一箸
幻冬舎　1800 円　（フカ）